

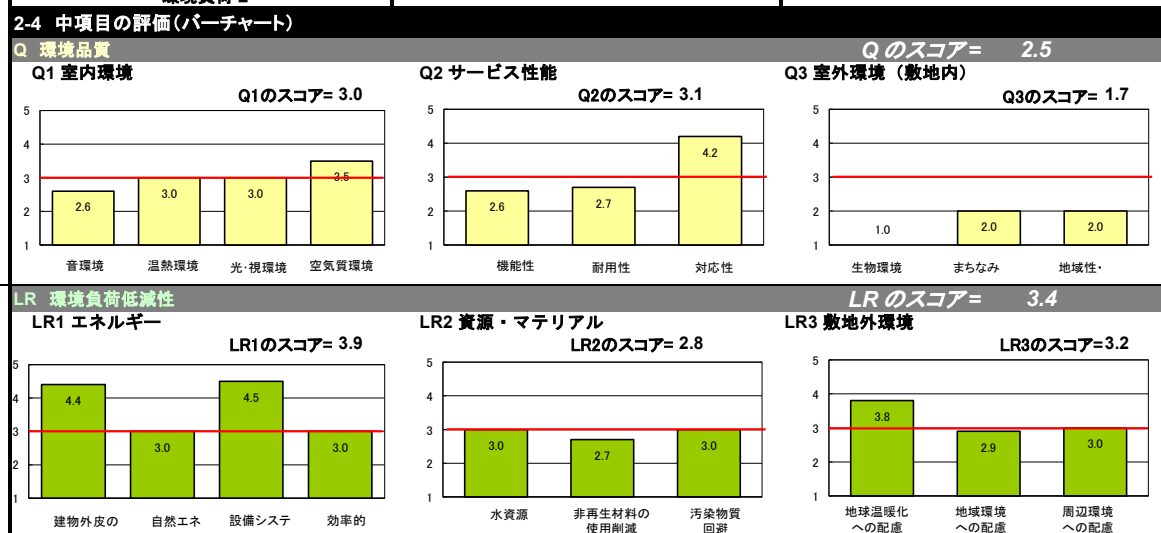
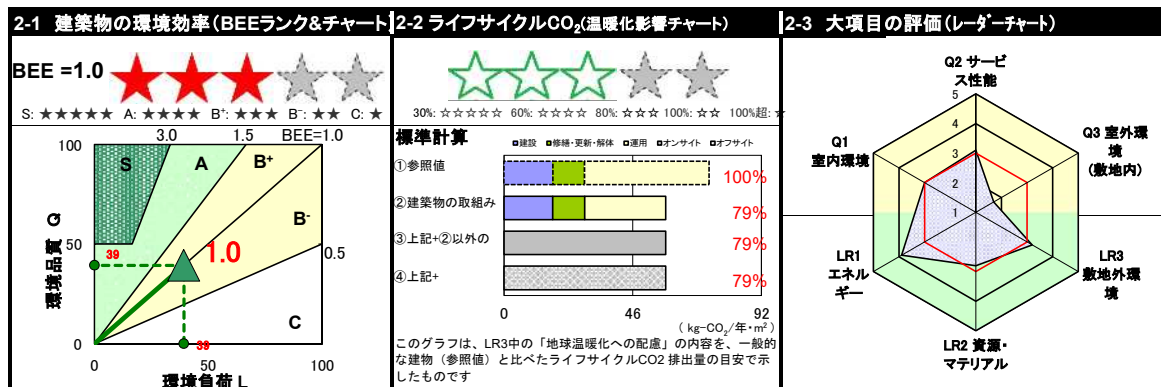
CASBEE[®]あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社funbox愛知工場	階数	地上3階
建設地	愛知県愛知郡豊田町大字2番地23号、24番、25番、26番、27番、28番、29番、30番、40番、101番、102番、103番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	206 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2025年1月25日
敷地面積	7,064 m ²	作成者	玉井 秀一
建築面積	2,592 m ²	確認日	2025年1月27日
延床面積	7,039 m ²	確認者	玉井 秀一



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.8	1.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.0	1.0
①地球温暖化への配慮	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	3.0 %
②資源の有効活用	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
③敷地内の緑化	＜外装材に使用した地域性のある材料＞
	なし
④地域材の活用	＜建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材＞
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社funbox愛知工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質										2.5	
Q1 室内環境						0.32			-	3.0	
1 音環境				0.1	2.6	0.15			-	2.6	
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40		3.0	-		
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40			-		
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.60		3.0	-		
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.40		3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-		3.0	-		
1.3 吸音				-	1.0	0.20		3.0	-		
2 温熱環境				0.3	3.0	0.35			-	3.0	
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50			-		
1 室温				3.0	3.0	0.38		3.0	-		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25		3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38			-		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20		3.0	-		
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30		3.0	-		
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25			-	3.0	
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30			-		
1 昼光率				3.0	3.0	0.60		3.0	-		
2 方位別開口				3.0	-	-		3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	-		
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30			-		
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00		3.0	-		
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		3.0	-		
4 空気質環境				0.2	3.5	0.25			-	3.5	
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50			-		
1 化学汚染物質		内装材に使用する材料・塗料はF☆☆☆☆のものを使用する。		3.0	4.0	1.00		3.0	-		
4.2 換気				0.3	3.0	0.30			-		
1 換気量				3.0	3.0	0.33		3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33		3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33		3.0	-		
4.3 運用管理				0.2	3.0	0.20			-		
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50			-		
2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50			-		
Q2 サービス性能						0.30			-	3.1	
1 機能性				0.4	2.6	0.40			-	2.6	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	1.5	0.40			-		
1 広さ・収納性				3.0	1.0	0.50		3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	2.0	0.50		3.0	-		
3 バリアフリー計画	独自			3.0	-	-			-		
1.2 心理性・快適性				0.3	3.3	0.30			-		
1 広さ感・景観 (天井高)		事務室の天井高3.0m以上となっており、かつ、窓がある。		3.0	5.0	0.33		3.0	-		
2 リフレッシュスペース		食堂が計画されている。		3.0	4.0	0.33			-		
3 内装計画				3.0	1.0	0.33			-		
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30			-		
1 維持管理に配慮した設計		評価する取組みが6つある。		3.0	4.0	0.50			-		
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50			-		
2 耐用性・信頼性				0.3	2.7	0.31			-	2.7	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48			-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80			-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20			-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	2.6	0.33			-		
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23			-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔	②			-	1.0	0.23			-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔				-	3.0	0.09			-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08			-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にC以上を使用している。		-	4.0	0.15			-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23			-		
2.4 信頼性				0.1	2.4	0.19			-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20			-		
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20			-		
3 電気設備	②			3.0	1.0	0.20			-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20			-		
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20			-		

3 対応性・更新性				0.2	4.2	0.29	-	-	-	4.2		
3.1 空間のゆとり			②	階高=4.0m以上 壁長さ比率=0.029 4500N/㎡以上としている。	0.3	5.0	0.31	-	-	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	
1	階高のゆとり	-			5.0	0.60	-	-	-			
2	空間の形状・自由さ	3.0			5.0	0.40	-	-	-			
3.2 荷重のゆとり					3.0	5.0	0.31	-	-	-		
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-		
1	空調配管の更新性	-			3.0	0.17	-	-	-			
2	給排水管の更新性	3.0			3.0	0.17	-	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0			3.0	0.11	-	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0			3.0	0.11	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0			3.0	0.22	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-					
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38	-	-	-	1.7		
1 生物環境の保全と創出				独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮				独自④	-	2.0	0.40	-	-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				独自④	-	2.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	-	3.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.86	3.0	4.4	0.22	-	-	-	4.4	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.12	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.65	3.0	4.5	0.46	-	-	-	4.5	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング					-	3.0	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制					-	3.0	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	-	2.8	
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0	
1.1 節水					3.0	3.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7	
2.1 材料使用量の削減				② 独自	-	-	2.0	0.07	-	-	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用						-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材						3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み						3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	-		
1 消火剤					-	-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50	-	-	-		
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮				①	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8	
2 地域環境への配慮					0.3	2.9	0.33	-	-	-	2.9	
2.1 大気汚染防止					燃焼機器を使用していない。	-	5.0	0.25	-	-	-	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0
2.2 温熱環境悪化の改善						-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						0.2	2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減						独自	-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制				独自	適切な量の駐車スペースと自転車置場を確保している。	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 騒音				独自	-	3.0	1.00	-	-	-		
2 振動				独自	-	-	-	-	-	-		
3 悪臭					-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策					-	3.0	0.70	-	-	-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	3.0
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社funbox愛知工場

計画上の配慮事項	
総合	建物全体の熱負荷抑制、対応性・更新性に配慮した計画とした。
Q1 室内環境	
Q2 サービス性能	ゆとりある階高と荷重の設定により、対応性・更新性の配慮を行っている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地外周部に緑地帯を設け、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	事務所棟の外壁に断熱性のある材料を採用している。 また、LED照明器具を採用している。
LR2 資源・マテリアル	事務室の床はフリーアクセスフロアとすることで、非再生性資源の使用量削減に配慮している。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車スペース、バイク置場、自転車置場を確保している。
その他	